

市民参加による冬季の歩道空間確保に関する社会実験（青森県青森市）

1. 実験実施の背景

- ・市民の高齢化が進み、歩行空間の安全歩行が困難
- ・歩道融雪施設が老朽化し、故障頻度が高い
- ・高齢化やコミュニティ不足により、町内単位で協力・連携した歩行空間の除雪が困難

2. 検証項目

- 融雪マットの性能確認
 - ①融雪マットの融雪の確認
 - ②融雪マットの融雪幅員の確認
 - ③融雪マットの歩行状況の確認
 - ④融雪マットのズレなどの状況確認
 - ⑤融雪マットの経済性確認
- 市民団体による管理・運営に関する効果や課題についての検証

3. 今回の実験内容及び結果

【実験位置】 ①青い森公園北側、②みちのく銀行戸山支店前

【実験内容】

- 融雪施設の設置
融雪マットを接着剤で固定
- 市民団体による管理・運営
毎週月・水・金曜日に市民団体が巡回

- ① 青い森公園北側
歩道中央埋設の既存融雪施設と並列
2種類(融雪ゴムマット、電気式融雪シート)
 - ・幅1m×長さ5m×厚さ9mm(2種類共)
 - ・電圧100V(運転制御センサーなし)

- ② みちのく銀行戸山支店前
 - ・幅1m×長さ24m×厚さ8mm
 - ・幅1m×長さ5.2m×厚さ8mm
 - ・電圧200V(運転制御センサーあり)

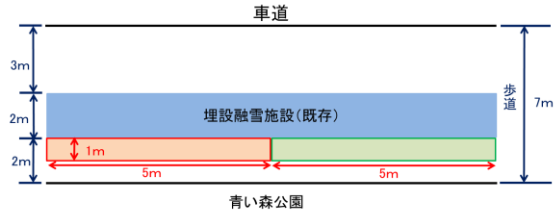


図-4 歩道部平面図 (①青い森公園北側)

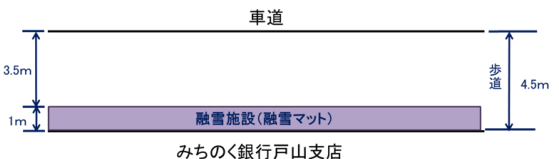


図-5 歩道部平面図 (②みちのく銀行戸山支店前)

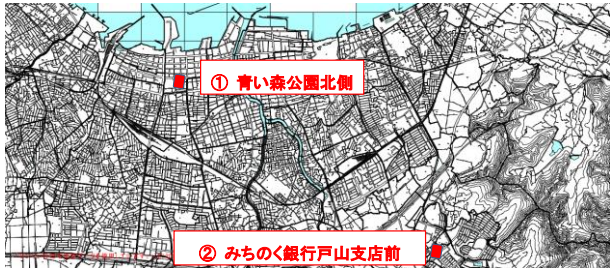


図-1 位置図



図-2 詳細位置図 (①青い森公園北側)



図-3 詳細位置図 (②みちのく銀行戸山支店前)

【実施期間】 平成27年10月13日(火)～平成28年2月29日(月)

4. 検証結果

- ①融雪マットの融雪の確認
 - ・市民団体の現地調査で、融雪マットの上に**雪がなかった**
 - ・**融雪速度**は既存融雪施設より**早かった**
- ②融雪マットの**融雪幅員**の確認
 - ・市民団体の現地調査で、連続降雪時、端10cm程度未融解だったが、**歩行には問題なし**
- ③融雪マットの歩行状況の確認
 - ・市民アンケート調査で、9割以上が**快適に歩行**、多数が**既存施設より安心**と回答
- ④融雪マットのズレなどの状況確認
 - ・市民団体の現地調査で、基本的に**融雪マットのズレ・捲れ・滑り・摩耗・傷・穴等の悪いところなし**
- ⑤融雪マットの経済性確認
 - ・**施工経費**は格段に**安く**、維持管理費を考慮しても、**経済性に優れる**
 - ・施工経費の差は、**約70年分の維持管理費**に相当

表-1 ロードヒーティングと融雪マットの経済性比較

	施工経費	維持管理費(1年当たり)
ロードヒーティング(最新)	149,133千円	0千円(電気代等の維持管理費は基本的にかからない)
融雪マット	51,615千円	1,390千円

H26年度のロードヒーティングと融雪マットを同規模(421㎡)で比較
融雪マットの歩行について

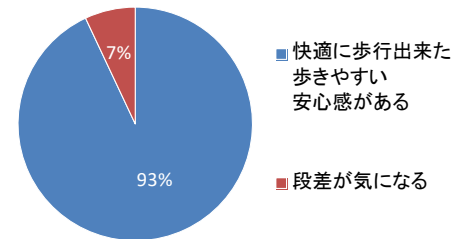


図-6 融雪マットの歩行状況に関するアンケート



図-7 実施状況（青い森公園北側歩道）



図-8 実施状況（みちのく銀行戸山支店前）

5. 実験後の展開、明らかになった課題等

- (1)市民団体による管理運営
 - ・融雪マットの経済性確認及び市民アンケート結果より、**市民団体による融雪マットの管理及びランニングコストの負担は可能。**
- (2)融雪マット等の占用物件への追加要望
 - ・道路占用物件として設置可能となれば、市内で普及につながるものと期待。